

「10年後のありたい姿」は

生活や経済活動で、エネルギーをはじめ調達可能な未利用資源が発見・活用されて、生活の充実や楽しみになり、都市の特徴と認識されていること

です

この「ありたい姿」の実現には、

自給できるモデルが生まれ成長

生活に必要な資源をできるだけ自給している

- 地域に豊富にある、森林・水・農産物などを活用して、自足はできなくても、できるだけ自給することで、危機に強く、幸せを感じて暮らしている
- ハワードの田園都市構想の職住近接、市街地の周囲に農地、田園と都市の幸せな結婚を実践している
- できるものは市内調達し、できないものは近隣・松本平から調達

インパクトのあるモデル事業を展開

- 集落単位(農村や奈良井宿)でエネルギーを自給市立させ、自ら電気代を決定するような先駆的なモデルを実現している
- モデルが市内及び全国に展開し、先進地として認識されることで、環境面での都市競争力を得ている

無理しない環境配慮

カッコいい、楽しみながらできる脱炭素

- 我慢して環境配慮をするのではなく、夢があり、カッコよく、Z世代を引き付けるような脱炭素の取組みを展開している
- 環境負荷の可視化が進み、取組みに手ごたえがある
- 取組むとお得になる仕組みがある

実践活動が同時多発的に進み、弾みがついている

それぞれサーキュラーエコノミーを実装

- 実践が同時多発的に展開
- 野菜くず・廃棄野菜の活用法の開発
- 太陽光・小水力発電・バイオマス等の再生可能エネルギーが普及
- フードマイレージを減らす

事業活動が環境と共生

- インフラの統合により、移動やエネルギー消費を効率化
- 環境負荷が低い農業が実現
- 各種産業が環境に配慮し自然と共生しながら営まれている

の実現が必要です

【ワークショップの概要】

- 本市には、多様な自然資源(水、森林)や農業などの資源があるが、エネルギーとして活用しきれていなかったり、遠くから調達しているが、環境負荷を低減するには、未利用資源の活用や、できるだけ近場で調達することが必要である。この姿は、塩尻市が目指す田園都市のコンセプトとも合致する。
- ただし、あまり無理や我慢を重ねても活動が継続しないため、成果が目に見えるようにすることに加えて、取組むことが喜びになり、豊かさの実感につながるようなアプローチが必要。
- ゼロカーボンの取組みに弾みをつけるには、他の地域に先駆けて塩尻市らしい好事例をつくり、注目を集めたり、市内や他地域に展開させていくことができると良い。集落単位でのエネルギー自立、奈良井宿のゼロカーボン化などのアイデアがある。

分野⑤ 環境・気候

私たちの目的は、取り組みを通じて将来に生活の安全、

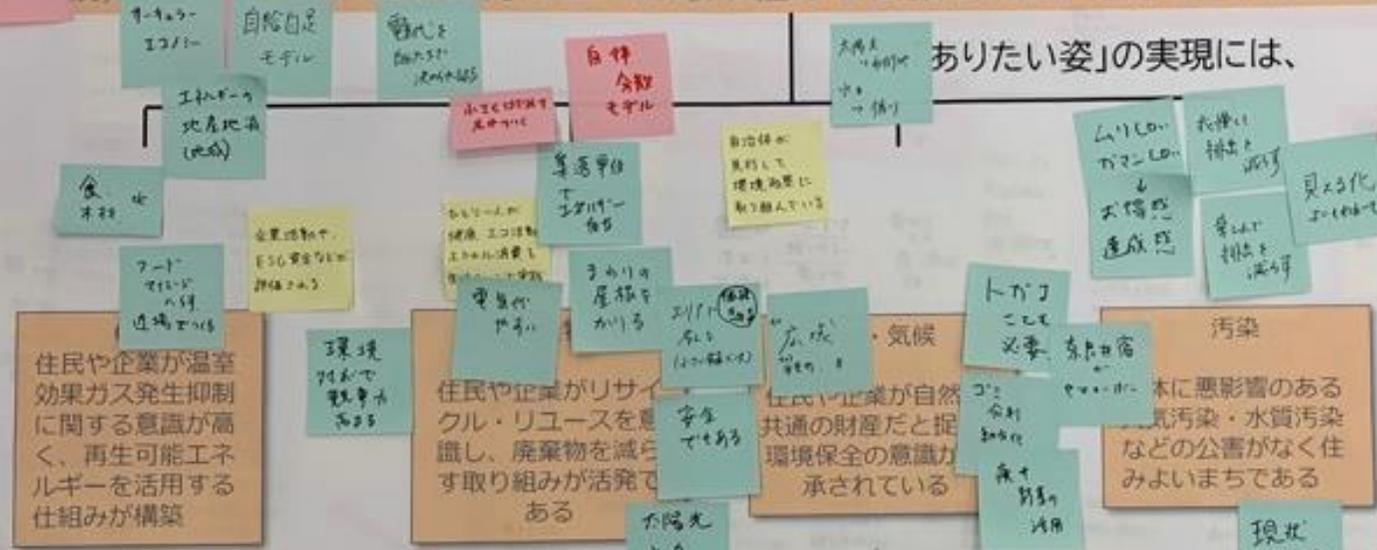
守りたい力
 100年
 100年
 100年

「100年」の「ありたい姿」は

「100年」の「ありたい姿」は
 100年
 100年
 100年

「業が環境負荷ゼロへの取り組みを目指し、豊かな自然と共生していること」です

「ありたい姿」の実現には、



夢がある
 可視化
 一周回って
 カッコイイ
 減らす
 数回ある

の実現が
 必要です

が問題です

細かくは

- ① 温室効果ガス削減 (CO₂)
- ② F power 20%削減
- ③ 太陽光パネルで家内はゼロ
- ④ 廃棄物削減
- ⑤ 自然と共生 (水資源)
- ⑥ 温暖化対策 (外装断熱)
- ⑦ コスト削減
- ⑧ 単純作業削減 (効率化)
- ⑨ エネルギーコスト削減 (LED)

受給
 100年
 100年

受給
 100年
 100年

現状
 課題